

1 月末発売！『地力アップ大事典』のご案内

このたび農文協では、『地力アップ大事典』を発売します！
①肥料法改正・②みどり戦略・③気象変動といった農業情勢を踏まえ、今こそ有機物・有機質肥料で地力をアップする時ではないかと考えました。



●水田へのケイ酸散布（上図）

①肥料取締法の改正

今回、「指定混合肥料制度」が創設され、これまでできなかった化学肥料などの普通肥料と堆肥、土壌改良資材の配合・販売ができるようになりました。これにより、堆肥や石灰、元肥などが一度にまけるほか、堆肥が田畑に投入しやすくなります。背景には、堆肥の散布を敬遠する高齢農家や大規模農家が増えていることや、堆肥の施用量減少による地力の低下、世界的な肥料需要の高まりによる肥料価格の高騰などがあげられています。今後は、家畜糞堆肥などを原料にした肥料の流通が増えそうです。

②みどりの食料システム戦略

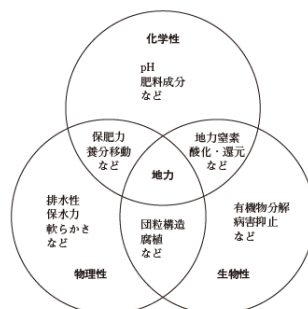
農水省は農業による環境負荷の低減と生産基盤の強化を目指して「2050年までに目指す姿」として、「農林水産業の二酸化炭素排出実質ゼロ」と、「有機農業を全面積の25%（100万ha）に拡大、化学肥料の使用料30%削減、化学農薬の使用量半減」を掲げています。この背景には、気象変動への対応や、SDGs（国連・持続可能な開発目標）などの国際的な潮流の強まりがあるとされています。

③気象変動

高温干ばつ、ゲリラ豪雨など、異常気象が頻発し、農産物の安定生産がますます難しくなっています。作物の生産力の基本である「地力」をいま一度見直す必要があります。

こうした中、『地力アップ大事典』では、全体構成を「地力の実態」「地力とは」「地力の改善」の3本立てとしました。なかでも本事典で重点をおいた内容は、以下になります。

- 市販有機質肥料・有機質資材の肥料特性
- 有機物の施用方法
- 有機物の吸収（アミノ酸の直接吸収など）
- 有機物の効果（団粒形成からバイオスティミュラントの作用まで）



●地力を構成する三要素

●ひまし油かす（上図）

本書の執筆陣は土壌肥料における第一線の研究者、指導者など約140名。基礎的研究から最新情報まで収録。地力の基本から学べる**有機質肥料・資材便覧**となっています。

有機物をうまく使いこなせば地力が高まり、気象変動にも強くなります。農薬や化学肥料の削減も実現しやすいはず。本書を安定した生産・経営、地域づくりのために役立てていただけたら幸いです。

《お問い合わせ先》

●『地力アップ大事典』 https://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_54021214/

※

一般社団法人 農山漁村文化協会 普及局（担当：横山） 〒107-8668 東京都港区赤坂 7-6-1
TEL. 03-3585-1142 FAX. 03-3585-3668 MAIL. yokoyama-m@mail.ruralnet.or.jp